

キャリアコース1日型

履修区分	単位数	レポート回数	最低出席回数	試験回数
必履修	4	12	11	2
教科書		副教材等		
新編国語総合（東京書籍）		新実用国語の演習（中部日本教育文化会）		
学 習 目 標				
言語文化としての国語のもつ正しさ、美しさについて認識し、合理的思考力や場に応じた想像力、的確な判断力、表現力を育て、伝え合う力を養う。				
学 習 内 容				
(1) 随想	「ルリボシカミキリの青」	(第1回レポート)		
(2) 古文	「古文入門」「児のそら寝」	(第2回レポート)		
(3) 古文	「絵仏師良秀」	(第3回レポート)		
(4) 漢文	「漢文入門」「借虎威」	(第4回レポート)		
(5) 小説	「羅生門」(1)	(第5回レポート)		
(6) 小説	「羅生門」(2)	(第6回レポート)	【(1)～(6) 前期試験範囲】	
(7) 短歌・俳句・詩歌		(第7回レポート)		
(8) 古文	「伊勢物語」	(第8回レポート)		
(9) 漢文	「唐詩」	(第9回レポート)		
(10) 漢文	「論語」	(第10回レポート)		
(11) 評論	「美しさの発見」	(第11回レポート)		
(12) 評論	「真の自立とは」	(第12回レポート)	【(7)～(12) 後期試験範囲】	
学 習 方 法				
<p>〈レポート〉</p> <p>国語を総合的に学習します。教科書をよく読み、授業中のプリントを参考にして問題などに取り組んでください。レポート内では、意見や感想を求めるものもありますので、初めから放棄するのではなく自分自身の力で考えて自分の言葉で記述できるように努力しましょう。</p> <p>〈授業〉</p> <p>授業はレポートの問題に触れながら授業で配布するプリントを活用して進めていきます。レポートを取り組む上で役立ちますので、授業にしっかり参加して課題プリントに臨んでください。理想としては授業に出席する前に、予習として教科書を一読し、語句や内容に注意を向け分からないところを明確にしておくことが望ましいです。特に古文や漢文は覚えるべき内容が多く、初めて学習する領域もあるため、授業にしっかり参加し、内容理解に努めてください。</p> <p>〈試験〉</p> <p>レポートで出題された問題などを中心に試験を作成します。試験前には覚えるべきところはしっかりと覚えながら、単元の内容を復習しておきましょう。</p>				
評 価 基 準 と 評 価 方 法				
レポートの評価、授業への取り組み、試験の成績、課題プリントなどの提出物、副教材への取り組みを				

総合的に評価します。

レポートの評価は以下の観点から行います。

関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解
伝え合う力、思考力、想像力を高めるとともに、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め国語を尊重しようとする。	状況に応じた話題を選んで説明したり、課題に応じた内容をまとめて報告や発表をしたりして自分の考えをまとめている。	相手や目的に応じて文体や語句を工夫し、適切な表現を考え、根拠に基づいて自分の考えを文章にまとめる	幅広く本や文章を読み、情報を得て用いたりものの見方、感じ方、考え方が深まったりする。	感じ、語句の意味、用法、文章の組み立てなどについて理解し、知識として身につけている。
担当者より一言				
現代文・古文・漢文などと様々な分野を扱いますので、覚えることも多くあります。教科書や授業プリントを読み返して予習や復習を行ってください。レポートは計画的に取り組み、提出期限内に提出してください。授業には積極的に参加し、内容の理解に努めてください。				

キャリアコース 1日型

履修区分	単位数	レポート回数	最低出席回数	試験回数
必修	2	6		2
教科書		副教材等		
改訂版世界史 A(第一学習社)				
学 習 目 標				
<ul style="list-style-type: none"> ・ 中学「歴史」での学習の復習もしながら、世界の近現代の歴史の展開を諸資料に基づき、地理的条件や日本の歴史と関連づけて、現代につながる生きた歴史を学習する。 ・ 世界史の学習を通して、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。 				
学 習 内 容				
【前期】 ○教科書は、P 24～155までを学習。 ○学習の中心（レポート） <ul style="list-style-type: none"> ・ ユーラシアの諸文明（第1回） ・ 結びつく世界と近世の日本（第2回） ・ ヨーロッパ・アメリカの工業化と国民形成（第3回） 		【後期】 ○教科書はP 156～233までを学習。 ○学習の中心（レポート） <ul style="list-style-type: none"> ・ アジア諸国の変貌と近代の日本 ・ 帝国主義の時代（第4回） ・ 世界戦争と平和（第4回・第5回） ・ 三つの世界と日本の動向（第5回） ・ 地球社会への歩みと課題（第6回） ・ 持続可能な社会への展望（第6回） 		
学 習 方 法				
<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業でレポートの内容について説明を聞く。 ・ 教科書、授業時の資料を用いてレポートを作成し、期限を守って提出する。 ・ 教科書・返却されたレポート・対策プリントの内容を理解し、考査を受験する。 				
評 価 基 準 と 評 価 方 法				
レポートの提出と評価、考査の成績を総合的に判断して評価する。				
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解	
近現代史を中心とする世界の歴史に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究するとともに、国際社会に主体的に生き国家・社会を形成する日本国民としての責務を果たそうとする。	現代世界の諸課題を歴史的観点から考察し、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	近現代史を中心とする世界の歴史に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取りたり図表などにまとめたりしている。	近現代史を中心とする世界の歴史についての基本的な事柄を地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解し、その知識を身に付けている。	
担 当 者 よ り 一 言				
先行き不透明な社会を生き抜く力を身に付けます。自分自身と結びつけながら学んでください。				

キャリアコース週1日登校型

履修区分	単位数	レポート回数	最低出席回数	試験回数
必履修	2	6	8	2
教科書		副教材等		
高等学校改訂科学と人間生活（第一学習社）		改訂ネオパルノート科学と人間生活（第一学習社）		
学 習 目 標				
<ul style="list-style-type: none"> ・自然と人間生活とのかかわり、および科学技術が人間生活に果たしてきた役割について、科学的な見方や考え方を養うとともに、科学に対する興味・関心を高める。 ・科学技術の発展が、どのように貢献したかについて理解する。 				
学 習 内 容				
(1) 衣料と食品（第1・2回レポート） (2) 微生物とその利用（第2・3回レポート） (3) 熱の性質とその利用（第4・5回レポート） (4) 身近な自然景観と自然災害（第5・6回レポート）				
学 習 方 法				
<ul style="list-style-type: none"> ・レポート 問題は教科書に沿ったものが中心となりますが、一部応用問題もあります。 ・授業 教科書に沿って、レポートの内容に触れながら説明します。 副教材で試験対策を行います。 ・試験 副教材から中心に出題します。前期：(1)(2)、後期(3)(4) 				
評 価 基 準 と 評 価 方 法				
<ul style="list-style-type: none"> ・評価は次の観点を踏まえ、レポートの評価、授業の出席状況、試験の成績などを総合して評価します。 				
関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解	
科学技術に対する関心を高める態度を身につけている。	これからの科学と人間生活とのかかわり方について科学的・論理的に思考し、判断する。	観察、実験の過程や結果およびそこから導き出した自らの考えを的確に表現する。	身近な事物・現象を通しての現代の人間生活と科学技術の関連性につける。	
担 当 者 よ り 一 言				
身近にある自然の事物・現象や科学技術について学習します。レポートや副教材などでわからないところは、積極的に質問してください。				

令和3年度 教科シラバス（キャリアコース）

教科	保健体育	科目	体育（1年次）
単位数	4単位（週4）3単位（週1）	レポート	4回
教科書	現代高等保健体育（大修館書店）	副教材	ステップアップ高校スポーツ

学習目標

体育・スポーツに関する知識を理解できるようにし、運動の合理的な実践および健康の増進と体力の向上に活用することができる資質や能力を育てる。

学習内容

前期（4～9月）	後期（10～2月）
（第1回レポート） ・体のつくりと働き・体ほぐしの考え方 ・体ほぐしの運動の行い方・器械運動・ （第2回レポート） ・運動・スポーツの文化的特徴 ・陸上競技・バレーボール・サッカー ・体づくり運動	（第3回レポート） ・運動・スポーツの学び方 ・バスケットボール・体づくり運動 （第4回レポート） ・豊かなスポーツライフの設計 ・卓球・バドミントン・体づくり運動

学習方法

週4日登校型	週1日登校型
・レポート 教科書・ルールブックを参考に、体育理論・実技に関する問題を解きながら知識を深める。 ・実技 それぞれの時間を楽しみながら実践する。 身体的・精神的に実技が困難な場合診断書を提出し認められれば、授業中の見学者用レポートで出席の代替えとする。	・レポート 教科書・ルールブックを参考に、体育理論・実技に関する問題を解きながら知識を深める。 ・実技 それぞれの時間を楽しみながら実践する。 身体的・精神的に実技が困難な場合診断書を提出し認められれば、授業中の見学者用レポートで出席の代替えとする。

評価方法

週4日登校型	週1日登校型
レポートの評価、授業の出席状況、授業の中で行う実技テストの成績などを総合して評価します。 レポートをすべて提出し、合格し、出席時数を満たしたならば単位が認定されます。	

令和3年度 教科シラバス（キャリアコース）

教科	保健体育	科目	保健(1年次)
単位数	2単位	レポート	6回
教科書	・現代高等保健体育 改訂版(1年次)	副教材	・現代高等保健体育ノート 改訂版

学習目標

個人及び社会生活における健康・安全について理解を深め、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を養う。

個人及び社会生活における健康・安全について理解を深め、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を養う。

学習内容

前期（4～9月）	後期（10～2月）
1 単元 現代社会と健康	2 単元 生涯を通じる健康 3 単元 社会生活と健康

学習方法

週4日登校型	週1日登校型
<u>授業</u> (週1回) レポートの内容を中心に講義します。 <u>レポート</u> (年6回) 教科書と副教材の中から出題します。 各回とも期限内に提出してください。	<u>授業</u> (年8回) レポートの内容を中心に講義します。 <u>レポート</u> (年6回) 教科書と副教材の中から出題します。 各回とも期限内に提出してください。

評価方法

週4日登校型	週1日登校型
定期考査は前期1回、後期1回、計2回行います。 レポートは再提出を求める場合があります。 定期試験、レポート、平常点(出席、授業態度等)を総合的に判断して評価します。	定期考査は前期1回、後期1回計2回行います。 レポートは再提出を求める場合があります。 定期試験、レポート、平常点(出席、授業態度等)を総合的に判断して評価します。

キャリアコース1日型

履修区分	単位数	レポート回数	最低出席回数	試験回数
必履修	2	6	8	0
教科書		副教材等		
書I (教育図書)				
学習目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・書写と書道の違いを明確にし、芸術としての書の古典を学習する。 ・書表現の多様さや書の文化について学習する。 				
学習内容				
(1)「書へのいざない」 (第1回レポート) (2)「漢字の世界」 (第2回レポート) (3)「行書の古典に学ぼう」 (第3回レポート) (4)「篆書に親しもう」 (第4回レポート) (5)「仮名の書の世界」 (第5回レポート) (6)「漢字仮名交じりの書」 (第6回レポート)				
学習方法				
〈レポート〉 ・教科書、授業時の資料を用いて書道作品に触れ、理解したことをレポートにまとめ、期限を守って提出しましょう。 〈授業〉 ・書道道具と教科書を毎時間持参しましょう。臨書なども含め、毎時間作品の提出を求めますので時間内に完成できるよう取り組みましょう。定められた回数以上の出席を満たしましょう。				
評価基準と評価方法				
レポートの評価、書作品、授業への取り組みを総合して評価します。 全てのレポートが合格しており、定められた回数以上の授業に出席をします。 レポートの評価及び書作品等の課題の評価は以下の観点から行います。				
書への関心・意欲・態度	書表現の構想と工夫	創造的な書表現の技能	鑑賞の能力	
書の伝統と文化に関心をもって、書のよさや、美しさを感じ取り、主体的に表現や鑑賞の創作活動に取り組む。	書のよさや美しさを感じ取り、感性を働かせながら自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫する。	創造的な書表現をするために書の基礎的な能力を生かし、効果的な表現の技能を身につけている。	日常生活の書の効用、文字及び書の伝統と文化について理解し、その価値を考え、書のよさや美しさを味わっている。	
担当者より一言				
教科書をしっかりと読み、書作品の課題やレポートに取り組んでください。様々な書体を扱いますので書き方などが分からない場合は遠慮せず質問してください。				

コース キャリア1日登校型

履修区分	単位数	レポート回数	最低出席回数	試験回数
必履修	4	12		2
教科書		副教材等		
Viva! English Communication I 第一学習社		Viva! English Communication I ワークブック 第一学習社 チャンクで英単語 Basic 三省堂		
学 習 目 標				
<ul style="list-style-type: none"> 英語を通じて積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。 情報や考えなどを的確に理解し、適切に伝えるための基礎的な能力を養う。 				
学 習 内 容				
前期 ・教科書 Lesson1～Lesson5 レポート①～⑥ 文のきまり、現在形、過去形、進行形、助動詞、不定詞、動名詞 後期 ・教科書 Lesson6～Lesson10 レポート⑦～⑫ 受動態、比較表現、現在完了、関係代名詞、分詞				
学 習 方 法				
<ul style="list-style-type: none"> 授業 <ul style="list-style-type: none"> 文法説明を聞き、要点をノート・ワークにまとめます。 教科書を読み、単語の意味をしらべ、発音練習をします。 本文内容理解を教師の支援のもと、進めていきます。 レポート <ul style="list-style-type: none"> 各課のまとめとしてレポートを作成します。教科書やワーク（授業ノート）を見て取り組みましょう。 試験 <ul style="list-style-type: none"> レポートの内容を確認する問題です。しっかりと復習して試験に臨みましょう。 				
評 価 基 準 と 評 価 方 法				
以下の観点で踏まえ、出席状況、レポート提出状況、定期考査の成績などから総合的に評価します。				
コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての 知識・理解	
コミュニケーションに感 心を持ち、積極的に言語 活動を行い、コミュニケ ーションを図ろうとす る。	外国語で話したり、書い たりして、情報や考えな どを適切に伝えている。	外国語で聞いたり読んだ りして、情報や考えなど を的確に理解している。	外国語の学習を通して、 言語やその運用について の知識、その背景にある 文化なども理解してい る。	
担 当 者 よ り 一 言				
授業では、積極的に英語を発音し英語の音やリズムに慣れ親しんでください。授業での説明をもとに、教科書やワークを読みながらレポートに取り組みましょう。基本の英単語や文法を身につけるとともに、外国の生活や文化にも興味を持って学んでほしいです。				

コース キャリア週1日登校型

履修区分	単位数	レポート回数	最低出席回数	試験回数
必履修	2	4	7	2
教科書		副教材等		
改訂版 社会と情報(第一学習社)		ポイントでマスター基礎からはじめる情報リテラシー(実教出版)		
学習目標				
コンピュータや情報通信ネットワークなどの活用を通して、情報を適切に収集・処理・発信するための基礎的な知識と技能を習得させるとともに、情報を主体的に活用しようとする態度を育てる。				
学習内容				
(1) 情報の活用と表現 (第1回レポート) (2) 情報の表現 (第2回レポート) (3) 情報社会のしくみと安全性 (第3回レポート) (4) 情報社会と問題解決 (第4回レポート)				
学習方法				
<ul style="list-style-type: none"> ・レポート 問題は教科書に沿った基本的な事項が中心となります。太字の用語や章末のまとめ等をきちんと確認をしながら解答してください。 ・授業 教科書に沿って、情報社会で必要不可欠である事柄等を解説します。また、パソコン実習では文書作成ソフトや表計算ソフト、ペイントソフトを活用して実習を行い、基本的なパソコン技術を学び、リテラシーを身につけていきます。 ・定期考査 レポートや教科書の用語とまとめ、章末問題の類題から出題します。前期、後期それぞれ1回ずつ実施します。 				
評価基準と評価方法				
・次の観点をもふまえ、授業への取り組み(出席状況・授業態度等)、レポートの評価、課題への取り組み、試験の成績等を総合して評価します。				
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解	
情報や情報社会に関心を持ち、身のまわりの問題を解決するために、自ら進んで情報及び情報技術を活用し、社会の情報化の進展に主体的に対応しようとする。	情報や情報社会における身のまわりの問題を解決するために、情報に関する科学的な見方や考え方を活かすとともに情報モラルをふまえて、思考を深め、適切に判断し表現している。	情報及び情報技術を活用するための基礎的・基本的な技能を身に付け、目的に応じて情報及び情報技術を適切に扱っている。	情報及び情報技術を活用するための基礎的・基本的な知識を身に付け、社会における情報及び情報技術の意義や役割を理解している。	
担当者より一言				
社会生活の中で情報や情報技術が果たしている役割を理解するとともに、SNSでトラブルに巻き込まれないよう情報モラルや法律等必要な知識を身に付けていこう。レポートは期限を厳守して提出してください。				

令和3年度 教科シラバス（週1コース）1年次・2年次

教科	総合	科目	LST (ライフスキルトレーニング)
単位数	1	レポート	なし
教科書	なし	副教材	手作りプリント

学習目標

<p>① 一人一人が安心して気持ちよく生活できるために、互いの人権を認め合い・助け合うことができる生徒を育成する。（人とのかかわりが苦手で尻込みをしがちな生徒や、逆に迷惑な言葉をついやってしまう生徒も一人残らず参加できるようにする）</p> <p>② 自己理解を深め、よりよい生活習慣作りができる生徒を育成する。</p>
--

学習内容

前期（4～9月）	後期（10～2月）
<p>① 生徒が人とのかかわり方のきっかけづくりをする。</p> <p>② 挨拶、感謝、温かい言葉がけを身につける。</p> <p>③ 自分の気持ちを表情や声の調子で表現することができる。</p>	<p>④ 他者の状況や気持ちを理解し、受け入れられる。</p> <p>⑤ 自分と他者との違いを認め合い、友達づくりを進める。</p>

学習方法

前期（4～9月）	後期（10～2月）
<p>① 生徒同士の共同活動を通して、心を開放することができる。</p>	<p>① 生徒同士の共同活動を通して、心を開放することができる。</p>

評価方法

前期（4～9月）	後期（10～2月）
<p>④ 振り返り票を提出しているか。</p> <p>⑤ 振り返り票を記入しているか。</p> <p>⑥ 授業に参加しているか。</p>	<p>④ 振り返り票を提出しているか。</p> <p>⑤ 振り返り票を記入しているか。</p> <p>⑥ 授業に参加しているか。</p>